

# 第9回 十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会概要

十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会を3/23に札幌で開催しました。

北海道開発局では、平成19年4月から運用を開始した十勝川千代田新水路の一部を、河川整備を進めていく上で解明すべき様々な技術的な課題に関する実験研究を行う実物大実験水路として活用しています。

十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会は、実験水路において実施する実験研究に関して、河川工学等の専門的な立場から以下に関して助言をいただくものです。

- 1) 実験研究の長期計画の策定・変更
- 2) 実験研究の評価に関すること
- 3) 活用研究者の選定に係ること

このたび、第9回十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会を、札幌において下記の内容で開催しました。



写真-1 第9回アドバイザー委員会の様子

## 【委員会の開催日時等】

- ・ 日 時：平成27年3月23日 13:30～16:30
- ・ 開催場所：かでの2.7 10階 1030会議室

第9回アドバイザー委員会には、委員5名全員が出席いたしました。

事務局から平成26年度に実施された破堤拡幅抑制工に関する実験実施報告、平成27年度の実験実施方針について説明を行い、その後委員により活発な意見交換が行われました。

なお、委員会は公開で行いました。

## 【第9回アドバイザー委員会の議題】

- (1) 平成26年度  
破堤拡幅抑制工実験 実験実施報告
- (2) 平成27年度  
実験実施計画・実験観測計画

## 十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会の委員名簿 (平成27年3月23日現在)

区分	氏名	所属
委員	黒木 幹男	元北海道大学大学院 工学研究科 准教授
〃	高橋 季承	国土交通省北海道開発局 建設部 河川計画課長
委員長	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 工学研究科 教授
委員	藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授
〃	山田 正	中央大学 理工学部 都市環境学科 教授

(50音順 敬称略)

## 第9回十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会の主な意見

### (1) 平成26年度 破堤拡幅抑制工実験 実験実施報告について

- 実験堤防の法面から漏水が見られたが、施工時の法面処理はどう管理しているのか。
- 実験堤防の実験時の安定性について確認をしてほしい。
- 破堤による実験毎の崩壊土量の特徴について過年度の実験も含めて整理すること。
- ブロックを堤防法尻（堤内側）に1列でも置くことで破堤を抑制する効果があれば、破堤被害を軽減することになるので、実際の対策として意味がある。
- 平成26年度の1回目と2回目の実験は、本来別々の実験であるため、結果をそれぞれで整理する必要がある。

### (2) 平成27年度 破堤拡幅抑制工実験 実験実施計画について

- 繊細な実験ではあるが、レイノルズ数の違いが影響しにくい千代田実験水路で行うことで、整理し易くなるということであり、うまく纏めて欲しい。
- 水路幅や実験水路の流量に対する氾濫流量の比率、河床材料など千代田実験水路の特性を理解して実験を進めること。また、締め切りに関する実験の条件については、水位の制御などよく検討の上で実施すること。
- 流されにくいブロックを新たに開発してみてもどうか。
- ブロックは無数の種類があり検証が難しいので、鋼製牛枠のような新しい補助工法を実験で検証できればブロックの種類に捕らわれずに災害時に活用できると思う。
- 破堤災害が発生するような場合、住民の方々が避難する猶予の時間を少しでも長く確保することと、氾濫流量を少しでも減らし、広域的、長期的な氾濫の被害を軽減することが重要である。過年度の実験結果も含めて破堤拡幅抑制工でどのくらいの時間及び氾濫流量を抑制できたかなどを整理して欲しい。
- これまでの実験も含め、各実験がどのような状況を想定したのか簡潔に説明出来るようにするなど、各実験の位置づけを明確にして進めていくこと。
- 災害は地域で見れば毎年、起きるとは限らないため、水防に関する地元の経験値が落ち兼ねない。今年の実験では地元の水防団や災害時における北海道開発局所管施設等の災害応急対策業務に関する細目協定を締結している建設業の方にも参加してもらい、水防技術の維持や向上を図る必要がある。

## 今 後 の 予 定

- ◇ 今回の「第9回 十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会」で了承された事項や助言を踏まえて、今後の十勝川千代田実験水路における実験計画に反映します。